

2025年秋セメ

国内留学最終報告書

派遣先：立命館大学

00 目次

- 0 1 派遣についての概要
- 0 2 派遣前後の履修計画とその状況
- 0 3 留学での成果
- 0 4 今後国内留学する学生へのアドバイス
- 0 5 その他（留学準備・京都での暮らしなど）

01 派遣についての概要

派遣大学/学部 立命館大学文学部 衣笠キャンパス

派遣期間 2025年秋セメスター間
(2025年9月～2026年2月)

派遣開始時期 2025年9月

02 派遣前後の履修計画とその状況

国内留学前(5セメスター)

共通教養科目 32 / 16単位中

専門教育科目 34 / 62単位中

反対言語科目 8 / 20単位中

国内留学後(暫定)

+ 4単位

+ 16単位

± 0単位(復学後履修予定)

反対言語は立命館での履修が厳しい→復学後履修予定

の見通しを立てる。

02 派遣前後の履修計画とその状況

実際に履修した科目一覧

言語メディア探究

説話文学論

哲学史Ⅳ

ドイツ現代思想

日本文学の光と陰Ⅱ

ヨーロッパの建築・デザイン

専門演習Ⅱ

神話学Ⅰ

哲学概論Ⅲ

哲学史Ⅴ

日本文学の内と外Ⅰ

ヨーロッパ近代史研究Ⅱ

ヨーロッパ文化史

認定単位数 20単位

履修単位数 26単位

認定単位数よりも多く履修することが可能であったため、関心のある科目やAPUにはない科目を履修した結果、合計26単位となった。

03 留学での成果

派遣前の志望理由：

「社会における人間とは何か」について問いたいと思ったのが、私が立命館大学文学部への派遣を希望する理由である。APU入学時から関心のある戦争や平和について考えるべく、当初は国際関係の視点から学んでいた。しかし日々学問に打ち込むうちに「人間はなぜ戦争を繰り返すのか」「なぜ人間は対立するのか」「そもそも人間とは何か」と人間の原理を考えることに興味を持つようになった。現在在籍しているAPUは留学生が半数を占めるグローバルな環境である。だからこそ、国や人種による対立を考える以前に「人間」について問うことは学問をする上で不可欠だと感じ、哲学について学びたいと思うようになった。また、立命館大学にはAPUにはない文学部があるため、そこでの知識・思考力の獲得や、選択できる授業数が多いことによる幅広い学問領域への関心を高めることができる点も派遣を希望する理由である。私の研究対象であるハンナ・アレントは「他者の存在」と「複数性」を重要視している。APUとはまた違った環境で学ぶ「他者」との出会いを通して、新たな価値観や考え方を大切しながら学びに貪欲に取り組んでいきたい。そして、社会を生きる一人間としても成長していきたい。

目標：

①哲学について学ぶ

②哲学だけではなく文学部で獲得できる専門知識、及び思考力の獲得

③APUとは異なる環境で学ぶ「他者」との出会い

03 留学での成果

目標 ①哲学について学ぶ
②哲学だけではなく文学部で獲得できる専門知識、及び思考力の獲得

達成できたこと

哲学といっても、芸術や精神、現象学や存在論、神話など多様な切り口から学ぶことができた。履修登録時に哲学概論や哲学史をはじめ、ヨーロッパの歴史や文化に関する講義を同時に取ることで、時代背景と照らし合わせながら体系的に学び、理解の深度にもつながった。また、3回生での国内留学だったこともあり、1・2回生で学んだ内容が徐々につながっていく感覚を持てたことで、改めて学ぶことの面白さを実感することができた。

文学部ならではの講義においては神話学・説話文学論が印象に残っている。神話学では日本の神話を中心に、説話文学論ではグリム童話を中心に西洋の作品を取り扱った。神話や文学を通じて当時の人々が何を目的に、何を重要視していたのか、歴史的な背景を踏まえた上でどのような意図が込められているのかを説話や神話を通じて読み解いていく視点が興味深かった。両者ともに宗教と根付いており、人々が読むもの、繋いでいくものには歴史や思惑が色濃く反映されているのが面白かった。学んでいく中で人々の情景が浮かぶことも多く、生活の中で根付いてきたものだからこそ、現代での理解と当時の認識の差を感じることができた。

履修登録の際には、認定単位20に対してゼミを含む26単位分の講義を受講した。関心のある科目を悔いなく取ったことで、知的好奇心を高め、自身の興味関心を大切にできた期間であった。

03 留学での成果

目標 ①哲学について学ぶ
②哲学だけではなく文学部で獲得できる専門知識、及び思考力の獲得

達成できなかったこと(悔いに残ること)

達成できなかったこととして、全講義の単位取得である。26単位中1科目とることができなかった点が心残りである。その理由が、レポート期限を誤って認識していたことによる課題の提出不可であった。しかしながら、講義には全て参加し(インフルの日以外)、誰よりも真剣に講義を受けていた自負はあるため、学ぶことができたこと自体に悔いはなく、それ自体は有意義な時間であった。

インフルエンザにかかった期間と中間課題が重なっていたため課題に思うように取り組めなかった。体調管理は盲点であったため、季節の変わり目や流行り病など、自身の体調が万全でないと学べることに満足に取り組めないのもそういった面で惜しいと感じた。

03 留学での成果

目標 ③APUとは異なる環境で学ぶ「他者」との出会い

達成できたこと

講義を通して学生の課題が共有された際に、文学部的な視点での読み込み方を知ることができた。また、レポート・論文の書き方もAPUのゼミ等とは異なり、より執筆者の視点や言葉の使い方がわかりやすい(哲学書的な?)文体になっておりそのような点において、間接的に立命館の学生から学びを得ることができたと思う。

哲学、神話学、ヨーロッパ史などのより専門性の高い(APUと比較するとより特定かつ専門的な科目を受け持っている)教授の講義を受けたことで、多様な授業形態や学問の知識、個性的な先生方と出会うことができた。

立命館大学文学部での大きな出会いとしては、哲学者や文学者、作家・編者などの多様な人々に本を通じて出会えたこともある。作者の名前は聞いたことあっても読み込んだり、分析することのなかった人物の作品を通じて、時代を越えて学ぶことができた点において「他者」との出会いがあったと感じる。

達成できなかったこと(悔いに残ること)

サークルなどに入れなかった(入らなかった)ことがある。3回生ということでサークルを終えるタイミングということもあり、入ることが叶わなかった。立命館大学内にあるサークルなどのコミュニティに所属できなかったため、そのような点においての出会いや関わりは少なかった。

04 今後国内留学をする学生へのアドバイス

【履修登録編】

・まずは自分の履修状況をしっかりと確認することが大切。立命館では英語開講が少ないため、共通教養 or 専門科目をバランスよく取る必要がある。3回生以上は専門科目になることが多いので、専門科目が必要な人はそれを参考に授業を探すと良い。

・基本的に立命館大学での履修の際に単位数の上限はない。しかしながら、認定単位数（APUに戻った際にカウントされる単位）は20単位と決められているため、それには注意しつつも自身の興味関心に合わせて取ると良い。また、履修後の修正期間が2週間弱あるため、一度登録して講義の様子を見ながら調節ができる。（個人的には、「多く取って損はない!」「せっくなら20単位以上取ってもいいかな」と思っていたので、26単位取りましたがなんとか大丈夫でした!!学ぶのが好きな方はそれくらいとってもいいのかなと思いつつ、流石に30単位が限度だと思います）

・基本的に立命館大学各学部事務室の担当の方が丁寧に対応してくれるため、大きな心配はない。事務室（立命館大学）からメールにて送られてきたファイルに記載しメールにて送付することで、履修登録・登録辞退の手続きが行える。あとから科目を追加することはできないため、最初の履修登録時に興味ある科目は多めに登録しておく講義の雰囲気などを知った上で履修する科目を選べる。

・もしゼミ（専門演習）に入りたい場合は、可能であれば各学部事務室の人に相談してみるのも一つの手だと思う。どこまで知っているかは担当者によって異なると思うが、ゼミや先生の雰囲気程度でも聞ければ参考になると思う。なお、発表形式がメインのところはさっぱりした印象で、既にすることが明確になっている（文献を読む）などはゼミ生間のつながりが強い印象がある（あくまで一個人の意見です）。

・APUと比較してグループワークのある講義が少なく、特に専門科目は個人で受けるようなものが多い。シラバスを読んで自分に合うものを見つけて見てください。

04 今後国内留学をする学生へのアドバイス

【勉強（講義）の進め方編】

- ・出席の取り方は教授によって異なり、コミュニケーションペーパーやレスポンスというアプリを介しての出席確認があるため、事前にシラバスなどでどのような媒体なのか確認し、必要に応じて登録しておくが良い。
- ・立命館大学文学部の講義では、紙媒体での講義が多い。配布資料が事前にmanabaにて共有されているため、学生は各自印刷して講義を受けるスタイルが多かった。担当教員によっては紙媒体の資料を印刷して配布する場合や、小テストにて紙資料のみ持ち込み可としている場合もあるため用途によって使い分ける必要がある。なお、印刷は事前に学生証に紐づけられたポイント制であり、学内にある印刷機であればポイントを使用することで手軽に印刷ができる。
- ・講義後の課題は基本的にmanaba上でのコメント・感想が多く、提出期限はその日中～3日後程度であった。日々の課題ではレポート提出はなく、中間課題や期末試験などで2000字～4000字程度のレポート提出を求められることが多かった。期末試験の問題も基本的には論述問題が中心である。
- ・勉強の進め方としては、図書館利用が効果的であったと思う。立命館大学は貯蔵している本が多く、また衣笠キャンパスには院生・教員を中心に利用されている資料室があり、学部生はその利用も可能である。そのため、レポート執筆の際は、図書館の利用が資料探しには効果的であった。図書館の建物自体も綺麗で、本だけでなく勉強スペースも充実しているため利用をお勧めする。

04 今後国内留学をする学生へのアドバイス

【受け入れ体制編】

- ・受け入れ体制自体はしっかりしていると思う。強いて言うなら、意外と教員も知らないことがあるためそういうところでは驚いた。
- ・思っていたよりも立命館生との関わりは少ないため、自ら声かけに行ったりコミュニティに入っていく必要はある。

【生活の知恵編】

- ・学食やお弁当などの支払いで生協アプリを利用している人は、早めにAPUの生協アプリから立命館への切り替えをしておくとな後々楽になる。私は切り替えるタイミングを逃したため、早めにやっておくと便利で気持ちお得になると思う。
- ・個人的には晴れた日の中庭で唐揚げおろしポン酢弁当を頬張るのがおすすめです。学食はお昼休み混むのですが、中庭は人が居ても広々としているので気が楽だと思う。

その他（留学準備・京都での暮らしなど）

【留学準備①～持っててよかった編～】

・これ!と言って必要と感じたものはないが、個人的に意識していたこととしてはPCよりもノートで板書をするようにしていたことがある。実際、PCよりもノートの方が授業の理解度が高まるほか、紙媒体での講義が多いため事前にノートを用意していると便利であった。

【留学準備②～宿探し編～】

※留学準備をするにあたって家探しが一番大変だったので次のスライドにまとめています。

05 その他（留学準備・京都での暮らしなど）

【留学準備②～宿探し編～】

派遣3～4ヶ月前 宿探し開始！

マンスリーマンション？

or

シェアハウス？

マンスリーマンションも検討したが値段が高く、また半年ということもあったため、費用も抑えられて家具や家電もついているという理由でシェアハウスに！何より京都は意外にもシェアハウスが多い！

シェアハウスの探し方（私が使用したサイトを以下参照）

①ネットで「京都 シェアハウス」で検索

②シェアハウス仲介サイト「ひつじ不動産」を利用 ※他にもあるので自分に合うものを利用してください。

（参考までに：この時の条件/女性専用・家具付き・家賃5万前後・半年可）

③上記サイトに載っている「8nest」よりシェアハウス契約

05 その他（留学準備・京都での暮らしなど）

【留学準備②～宿探し編～】

シェアハウスのよかった点

- ・費用を抑えられる→京都市内、特に中心部だとマンスリーでも月8万程度するので、家具等全て込みで月5万円は安い！
- ・家具付きなので洋服さえ持っていけばなんとかなる
- ・（私の住んでいたところは）女性専用や価格帯など、探せば割と好条件なところが多い
- ・立命館大学の寮と比較すると比較的新しく、リノベーションされたところが多い

シェアハウスの気をつけてポイント

- ・シェアハウスによっては学生だけではなく、社会人の方が多い場合もある
- ・結局は人の生活のあとが気になるかどうか、、、（共有部分の使い方など）
- ・シェアハウスによって色があるため住んでみないとわからないところもある

05 その他（留学準備・京都での暮らしなど）

【京都での暮らし編】

～立命館大学への交換留学の醍醐味の一つ！京都での暮らし～

- ・京都で生活する中でバスの定期はあると便利だと思った。私はキャンパスから徒歩圏内にシェアハウスがあったため、必要はなかったが、少し離れている場合は必須だと思う。また、持っていないにせよ一律230円と別府よりも安いため、許容範囲だと感じた。
- ・京都市バスの混み具合はAPUというほど変わらない。時間帯次第で混んだり、空いたりしているのでそのタイミングを見計らえば快適に乗ることは可能。
- ・京都に住みだすと、驚くほど観光地に行かなくなる。私は結局京都御所と嵐山の2つしかいけていないため、お目当てのところがあれば早めに行っておくことをお勧めする。
- ・京都にいたのであれば、電車・地下鉄で行ける範囲の関西巡りをすると関西で暮らしている人の生活が見えるようで楽しいのでおすすめ。体感で距離感や時間などが把握できるようになるため、京都のみならず関西に住んだ実感が湧くと思う。
- ・バス以外にもスクーターや電動自転車の貸し出しが盛んに行われている。バスで行くには気持ち近い程度の場所に住むのであれば、自転車を買うのも一つの手だと思う。自転車さえあれば生活がしやすくなる。

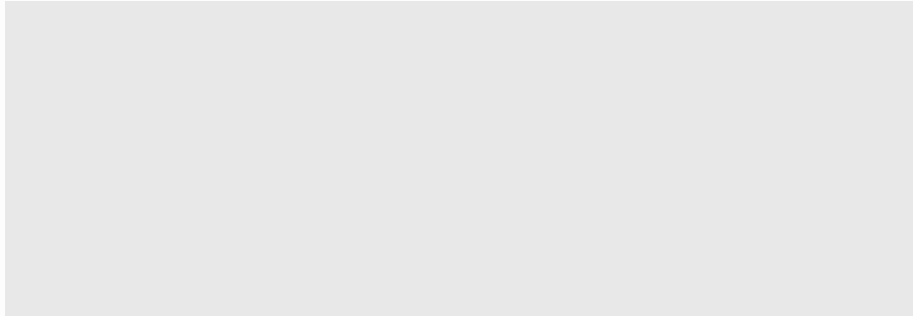
2025年秋セメ

国内留学最終報告書

～終～

国内交換留学最終報告

- ・ 立命館大学 文学部
- ・ 派遣期間：1セメスター
- ・ 派遣開始時期：2025年秋セメスター





国内留学を決めた経緯

ワルシャワ大学への交換留学や、中央・東ヨーロッパ、北アフリカ諸国を訪れた経験を通して、政治体制や宗教観の多様性を強く実感し、社会や政治に対する見方が大きく変化しました。

また、留学中に受講したミシェル・フーコーの生政治に関する講義を契機として、権力の作用の仕方や普遍的価値の正当性といったテーマに関心を抱くようになりました。

これらの問いを哲学、倫理学の視点から理論的に探究するため、立命館大学文学部への国内留学を志望しました。

留学で得た学び1

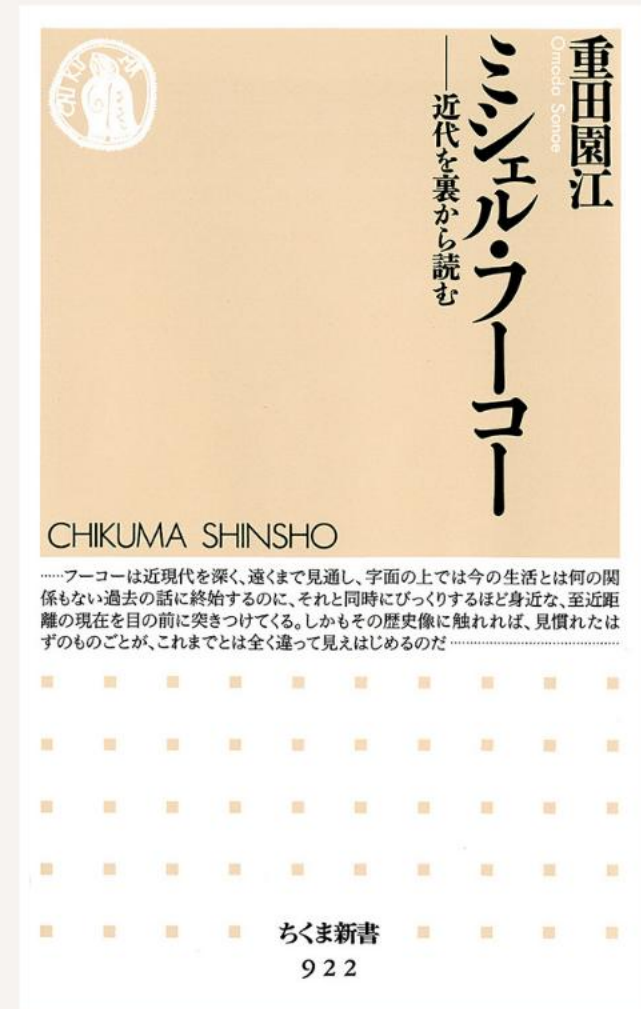
ゼミへの参加

留学期間中、最も今後に繋がる学びとなったのは、鈴木崇志先生のゼミに参加し、ミシェル・フーコーの規律社会について考察した経験です。

3回生の春学期は海外交換留学中でゼミに参加できず、焦りを感じていた中、短期間にもかかわらずゼミへの参加を受け入れていただき、深く感謝しています。

ゼミは、学生の研究発表に対し、他の学生や先生から質問や反論を受けて議論をする形式で進められ、発表後には先生との個別面談も行われました。

哲学を専門としていない私にとって難易度の高い内容でしたが、関心のあったフーコーの理論を自ら整理、発表、議論した経験は、理解を深める上で非常に有意義なものでした。



留学で得た学び 2

哲学的、倫理的視点を学んだ講義

ドイツ現代思想

近現代思想を代表する思想家たちの理論を丁寧に読み解き、哲学的に社会を見る視点を養いました。哲学を体系的に学ぶのは初めてでしたが、全体像を俯瞰するとともに、レポート執筆を通して、理論を応用して考察する力を身に付けました。

倫理学特殊講義

国家の正当性や政府の在り方といった政治哲学の課題を、様々な理論を用いて議論しました。今まで当たり前だと思っていた前提を問い直し、理論を用いてその正当性を検討していく過程がとても興味深かったです。

倫理学概論Ⅱ

善悪の判断や、命の価値といった倫理的課題を具体的事例を通して考えました。自分自身の倫理規範の向き合うことができ、その不確かさや曖昧さに気づくことができるとともに、答えのないいくつかの問いに出会うことができました。

留学で得た学び 3

京都滞在だからこそできたこと

国際系NPOでの長期インターン



京都に本部事務所を置く認定NPO法人テラ・ルネッサンスにて、広報インターンに挑戦しました。地雷撤去や元子ども兵の社会復帰などを行うNPOであり、APUで講演を聴いて以来、関心を持ってきました。将来の目標である国際協力の現場について理解を深めるとともに、職員やインターンの方々との交流を通してより具体的にキャリアビジョンを描けるようになりました。

フードツアーガイド



外国からの観光客に京都の町や食文化を案内するフードツアーガイドの仕事をしました。ガイドとして、日常の風景や文化に対する感度が高まり、京都や日本の歴史・文化を改めて深く理解するきっかけとなりました。また、外からの視点で日本の文化の独自性やその価値に気づくことができたと同時に、それを伝える役割を担えたことに強くやりがいを感じました。

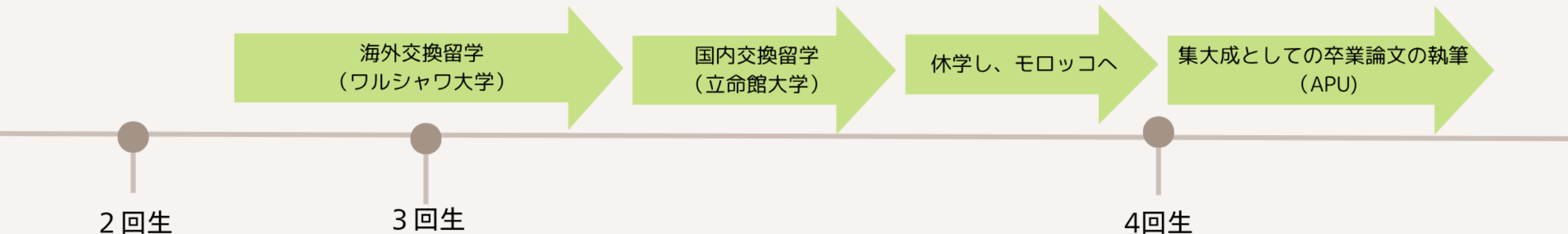
今後の進路

留学では、自身の根本的な倫理規範に向き合いながら、哲学的視点から国家や社会の在り方を見つめ直してきました。これらの経験を通して、政治体制や社会の在り方を一方向的な進歩として捉えるのではなく、それぞれの歴史的、文化的背景の中で相対的に理解する視点の重要性を強く認識するようになりました。

こうした問題意識を実践的に探究するため、今後は1セメスター休学し、関心を寄せてきたモロッコに滞在し、王権を中心とした統治が社会にいかなる影響を与えているのか、地域研究の視点から理解を深めたいと考えています。

その後、フーコーの政治哲学と北アフリカ地域研究を接続し、大学での学びの集大成として、卒業論文の執筆に取り組みたいと考えています。

卒業後は、日本の国際協力に携わり、各国の発展と国際秩序の安定に携わることを目標としています。その実現に向けて、今後もNPOでのインターンをオンラインで継続し、実践的な経験を積んでいく予定です。



今後このプログラムで留学する学生へのアドバイス

学部を選択

自分の学びたい授業がどの学部で開講されているか、しっかりとした下調べが大切だと思います。例えば、政治哲学を勉強したい場合、文学部の哲学・倫理学専攻の他にも、政策科学部や国際関係学部といった選択肢があると思います。それぞれの学部の特徴を吟味し、選択することが重要だと思います。

インターンへの参加

京都・大阪圏には、インターンの機会も多く、興味のあるインターンに挑戦してみるのもおすすめです。別府ではなかなか対面のインターンを見つけられない、ということもあると思うので、関西滞在を有効に活用してみてください。

友達づくり

留学中の課題のひとつが、友達作りでした。誰も知らない町で一から生活を始めるというのは案外容易ではありません。色々な人と知り合うことができる場所として、五条にあるLex & Coというカフェで定期的に行われている日本語と英語の交流会がおすすめです。ぜひ、調べてみてください。

おわりに

私はこれまでに2度、交換留学プログラムに参加しました。自らの学びを主体的に設計し、大学や国を横断して探究できることは、APUで学ぶ大きな強みであると感じています。

当初、ワルシャワ大学でフーコーに関心を持ったときには、立命館大学でさらに深く学ぶことができるとは想像していませんでしたが、本留学を通して専門的に探究する機会を得ることができました。同時に、学問分野間のつながりの深さを実感し、学部横断的に多角的な視点から学ぶことの重要性を改めて認識しました。

また、初めての京都での生活を通して、新たな環境に身を置くこと自体の価値とそこで得られる学びの大きさを実感しました。

最後に、本留学を支えてくださったAPUおよび立命館大学の関係者の皆様、ご指導いただいた先生方に、心より感謝申し上げます。



国内交換留学 最終報告書

派遣先大学

派遣学部

派遣期間

派遣開始時期

立命館大学

文学部

1セメスター

2025年9月中旬



【目次】

- 国内留学で達成できたこと
- 達成できなかったこと & 今後の進路
- 今後の学生へのアドバイス
履修登録、勉強の進め方、留学先の受け入れ体制、
生活の知恵、寮のこと

国内留学で 達成できた こと

- APUとは異なる10学部環境で、APUでは学べない地理学に触れ、知識の幅を広げることができました
- BBP (Beyond Borders Plaza) という立命館大学の言語学習施設では、アメリカ人の言語パートナーとマッチして、日本語とスペイン語を教え合う交流を行いました
- 「ユニコーン」というコンポストを行うサークルに週1で参加しました。立命館大学の知り合いもでき、地元の方とも関わる中でコンポストの意義や地域コミュニティの大切さを学びました



達成できなかったこと & 今後の進路

- 希望していた観光学の授業が抽選漏れや受講制限によって、あまり受講できなかったです
- ただ、受講した地理学が面白いことに気づき、観光とも結びつくテーマであるため、立命館で学んだ地理学をAPUでのゼミ研究にも活かそうと考えています



今後の学生へ のアドバイス

【履修登録】

- 立命館大学には、主に必ず取れる「本登録科目」と落ちる可能性のある「抽選科目」があります
- 私は抽選科目4つのうち2つが抽選に落ちたため、追加2つの本登録科目を取りました。
- また履修登録をする時は、授業名だけを見て面白そうと感じても、授業内容やレベルが想像と違ったりすることがよくあるので、派遣前にシラバスをよく確認してみてください！

今後の学生へ のアドバイス

【勉強の進め 方】

- 衣笠キャンパスの3階建ての図書館を自習室として活用するのがおすすめです。文学部の方は、「人文系文献資料室」も穴場なのでぜひ活用してみてください
- ただ、基本的な勉強の進め方は特にAPUに在籍している時と変わらないので、自分のペースを守って頑張ってください！



今後の学生への アドバイス

【留学先の受け入れ体制】

- 分からないことは自分から情報を集める姿勢が必要であり、授業や成績は学部事務室、その他の困りごととは学生オフィスに相談すると良いです
- また、「APUから来ました」と教授に話しかけてみると、学校施設や学習のための有益な情報も教えてもらえるかもしれないので、ぜひ積極的にアタックしてみてください



今後の学生への アドバイス

【生活の知恵】

- 京都は観光客が多くバスが混むため、自転車があると非常に便利です
- 週末は積極的に観光するのがおすすめで、徒歩15分で行ける金閣寺には空きコマにも行けます！
- 半年間という短期滞在では通常のアルバイトに受かりにくい
ため、単発アルバイトがおすすめます。（私は3件のアルバイ
ト先に滞在期間が短いという理由で断られました）



今後の学生への アドバイス

【寮のこと】

- 私はアパートに住んでいましたが、衣笠キャンパスの国際寮「インターナショナルハウス大將軍」は大学へのアクセスが良いと思います
- アパート探し：半年契約かつ家具付きの部屋は選択肢が少ないため、早め（6月下旬頃）に不動産会社に連絡し、部屋探しを始めることをおすすめします



私の おすすめ授業

【文学部】

- 村落地理学

都会と田舎の違いって何？から始まり、村（農村・山村・漁村）における人と自然のつながりを学ぶ学問です。先生がとても優しく教えてくれるので、地理学初心者でも楽しめる授業です！

- 地誌（日本）

地理学の一番基礎となる部分を教えてくれる授業なので、地理学の授業をとる方はぜひ合わせて取ってみてください。

- 文化地理学

場所や空間が持つ意味、都市の広がりやその上に広がる社会について学ぶ授業です。スマホを持っていないなど個性がとても強い先生で、話が面白いのでおすすめです。

- 映像メディア実践入門

立命館大学の数少ないグループワーク授業です。グループで番組作りをするので、チームメイトとの仲を深めやすいです。

- Introduction to the Culture of English Speaking Countries

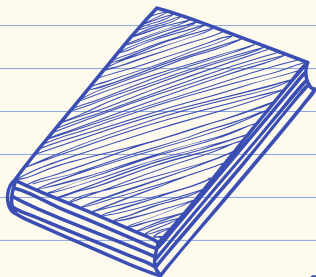
英語の授業名ですが、実際には日本語での授業でした。アメリカの奴隷制や音楽史について学びたい方はぜひ。

- 日本社会史Ⅱ

広島から毎週新幹線で通勤されている女性の方が先生でした。結婚や恋愛の歴史、性産業や戦時下のジェンダーについてなど、テーマが面白かったです。

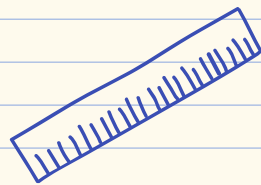
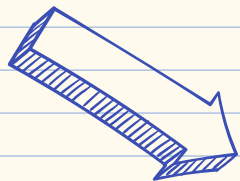
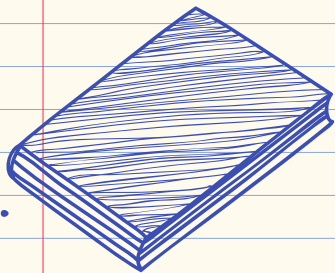
最終報告書

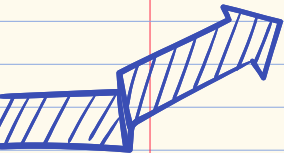
- 派遣先大学：立命館大学
- 派遣学部：文学部
- 派遣期間：1セメスター
- 派遣開始時期：2025年秋



01

留学での成果

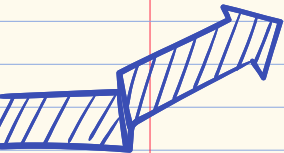




達成できたこと

- 日本語力の向上に加え、解釈力や表現力を伸ばすことができた
- 芸術作品の読解や毎週のコミュニケーションペーパーを通して、継続的に思考力や文章力を鍛えた
- 日本の演劇や西洋詩など、これまで触れてこなかった分野を学び、表現への理解を深めた
- 京都、大阪、神戸のアート展覧会を訪れ、現地のアートシーンに触れることができた
- **TRYFIELD**プロジェクトに参加し、**Adobe**ツールを用いたデザイン制作に携わった
- **BBP Language Exchange Program**に参加し、言語学習（英語、韓国語）に対して高い意欲を持つ友達と出会うことができた





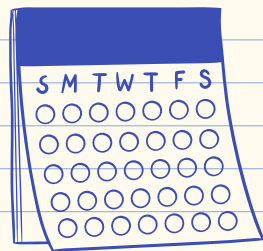
達成できなかったこと

- 映像制作系やダンス系のサークルは募集時期が春学期のみのため、参加することができなかった
- アートギャラリーでのアルバイトに興味があったが、授業の時間と合わず、実際に挑戦することはできなかった
- 現地での就職活動にあまり取り組むことができなかった

今後の進路

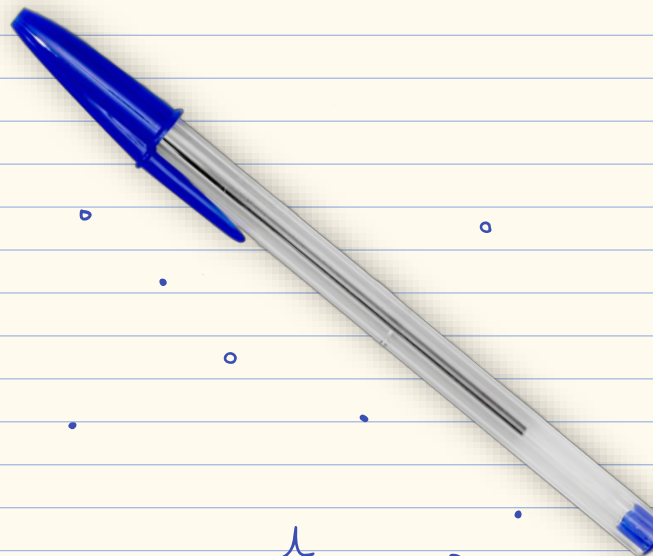
- 芸術や表現分野への関心がより明確になり、創作やデザインに関わる活動を今後も継続したいと考えている
- 大学院に進学し、将来的には美術館での勤務に携わることを目指している





02

アドバイス



履修科目

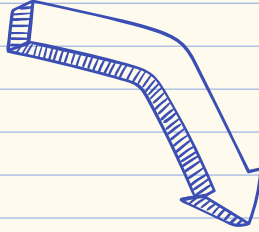
- 希望科目は広めに単位認定申請しておくのがおすすめ
- 抽選科目は辞退できないため、取りすぎに注意

勉強

- 文学部は読書量が多く、毎週レポート提出がある
- シラバスを事前に確認し、長期休暇中に必読文献を読んでおく
とかなり楽になる
- 期末試験ではなく期末レポートが課される科目が多いため、
期末に課題が集中するのを避けるため、早めに書き始めたほうが
いい

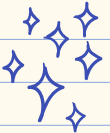
生活

- ・ プライバシーを重視する方は、寮ではなく他の住居オプション（シェアハウス、マンスリーマンション）も検討することをおすすめする
- ・ 寮以外の住居は早めに探すとスムーズ
- ・ バス、JR、地下鉄、阪急、嵐電など、京都では多様な公共交通機関があるため、バスの定期券は必ずしもコストパフォーマンスが高いとは限らず、必要ない場合もある
- ・ キャッシュレス決済が広く利用されているため、カードでの支払いが便利



03

その他伝えたい
こと





関西ではイベントが豊富であり、サークルに入らなくても、イベントやワークショップなどで十分にネットワークを広げることができる。



留学では環境が大きく
変化するが、自分の行
動や態度によって得ら
れる学びや経験は大き
く左右されるので、積
極的にチャレンジする
ことが重要！

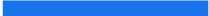
感想

今回の国内交換留学を通じて、立命館大学で学ぶことや京都での生活という経験を積むことができ、その環境が私の成長に大きく影響を与えたと考えている。芸術に関心のある学生として、授業からだけでなく、人々や文化、そして数多くのイベントが溢れるこの街からも多くのことを学んだ。

立命館大学では多様な授業が提供されているが、時間割表や履修登録の手引きはオリエンテーションで学生番号を受け取った後にしか確認できず、事前に履修計画を立てることが難しかった。また、馴染みのない分野の授業を多く履修したため、事前にもう少ししっかりと予習をしておけば、授業内ではもっと積極的に学ぶことができたと感じている。

国内交換留学

立命館大学経営学部



派遣学部・派遣期間

経営学部(茨木キャンパス)

2025年4月から2026年3月までの1年間

留学での成果

今回の国内交換留学を経て自分は色々な経験をし沢山のことを学びました。立命館大学の茨木キャンパスは2018年に出来た新しいキャンパスで沢山の最新技術を、駆使した教室などがあります。立命館大学の教授は、それらをうまく活用し授業を行なってくださる為APUとは異なるグループディスカッションの仕方やアプローチを学びました。また、自分は1年間の派遣と言うことでゼミにも所属しました。自分が所属したゼミは教授が沢山のゲストスピーカーを呼んでくださりました。立命館大学というネームバリューと教授のおかげで来ていただけたゲストの方もいたと思います。立命館大学のレベルの高いゼミを経験したことで得られて知識は計り知れません。

達成できなかった事として、英語開講の授業をもう少し取る事です。英語開講自体があまり多くなく、去年は自分自身専門科目を取ると決めていたため、あまりと取れる授業も無く当初予定していたより取る事が出来ませんでした。

今後の後輩たちへのアドバイス

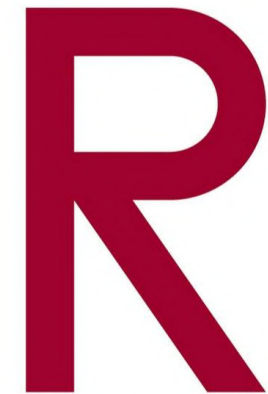
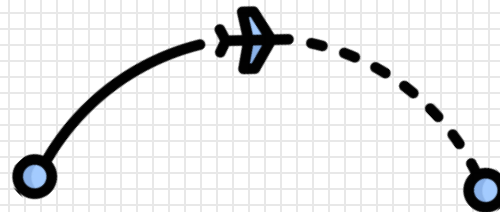
今後このプログラムに参加する生徒たちへのアドバイスとして、国際寮に住むことをお勧めします。国際寮には沢山の留学生が住んでおりキャンパス内ではあまり得られないグローバルな環境に身を置ける貴重な場です。また、寮では友人を作りやすく新環境での生活を楽しみスタート出来ます。1年間の留学をする生徒はゼミへの参加もお勧めします。ゼミもまた友人を作りやすく、立命館大学というレベルの高い大学の生徒と教授とふつうの授業よりも深く学びあえます。履修登録は、申請する前に一度キャンパスにいらっしゃる学部の担当者の方に相談する事をお勧めします。これまでの生徒の傾向などから的確にアドバイスしてまいります。

国内交換留学 最終報告書

Shape your world



Ritsumeikan
Asia Pacific University



RITSUMEIKAN
UNIVERSITY

目次

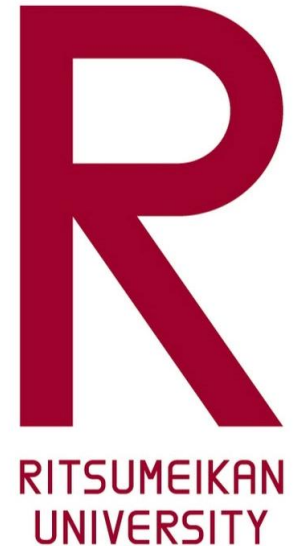
1. 派遣先の情報
2. 留学の目標
3. 留学での成果
4. 今後このプログラムで留学する学生へのアドバイス
5. その他（伝えたいこと、留學生活の中での気づき、留学準備や留学中におけるの改善点
6. 感想

派遣先の情報

図1 大阪いばらきキャンパス(OIC)



出所) 立命館大学ホームページ



- ・派遣先大学:立命館大学
- ・派遣学部:経営学部
- ・派遣期間:2025年秋セメスター
- ・派遣開始時期:2025年9月29日
- ・キャンパス:大阪いばらきキャンパス(OIC)

留学の目標

派遣前に設定した目標は次の通りである。

<派遣前に設定した目標>

・学びたいこと

①専攻知識の拡充

→他大学での学問に対する視野を学び、理解を深める過程で新たな気づきを得ること。

②地域文化とコミュニケーションの理解

→別府と大阪の地域特性やコミュニケーション方法の違いを実際に現場で感じ取り、理解すること。

・挑戦したいこと

①日本語能力の向上

→より高度な日本語表現や学術的な日本語を多様な場面で積極的に使い、実践的な言語運用力を磨くこと。

②キャリア探索と社会進出の準備

→派遣先のキャリアセンターを活用し、日本の就職文化やキャリア情報に触れ、自身の将来の方向性を具体的に見定めること。

このような目標に基づき留学を遂行した結果、次ページに示すような成果を導き出すことができた。

留学での成果

<達成できたこと>

専攻知識の拡充

専攻講義を受講することで、経営学の概念、消費者の心理、企業のあり方、製品企画のプロセスとその工夫などを学ぶことができ、多様な専攻知識を身につけることができた。また、専攻深化講義を通じて既存の知識を応用し、新たな理論を体系的に理解することができた。さらに、多様な講義を受講することで、一つの実験や理論が複数の学問分野と関連していることを認識することができ、これにより多角的な観点から思考する力を養うことができた。これらの能力は最終発表において1位を達成する成果へとつながった。

日本語能力の向上

グループディスカッションや発表課題のある講義を主に受講することで、多様な状況で日本語を使用する機会を確保した。これにより、アルバイトでの日常的な会話だけでなく、学問的な表現を活用した意思疎通能力を向上させることができた。特に発表を積極的に遂行し、リーダーとして主体的に活動することで、多数の聴衆の前で日本語を正確かつ公的な表現で駆使できる能力と同時に、言語的自信の向上という肯定的な成果を得ることができた。

キャリア探索と社会進出の準備

就職支援セミナーに参加することで、就職関連情報を体系的に習得することができた。また、グループを通じて形成された人間関係を基に、日本の就職システムについて理解することができた。人と接することやセミナーの利用といった経験は、今後の進路準備において重要な基盤として作用した。

図2 最終発表で1位を獲得した際の賞品



出所) 筆者撮影

留学での成果

<達成できたこと>

地域文化とコミュニケーションの理解

グループディスカッション、学内イベント、文化祭、アルバイトなどの活動を通じて多様な人々と出会い、様々な背景を持つ人々と交流することができた。特にアルバイトの経験を通じて、大阪地域の人々と直接的な疎通の機会を持つことができ、地域特有のコミュニケーション方式を体感することができた。具体的には、大阪では明るく活発な雰囲気の中で会話が行われる傾向があり、比較的大声で親しみのある身体的表現が伴う特徴を確認することができた。また、方言の使用が日常的であるという点も観察された。さらに、京都訪問を通じて現地の人との会話を経験し、大阪・京都に対する文化とコミュニケーション方式を知ることができ、別府との違いを実感した。自身が感じた各地域の特徴は以下の通りである。これは個人的な感想であり、個々人によって異なる可能性はあるが、今回の国内留学を通じて得られた新鮮な経験であった。

大阪	大きな声、活発な雰囲気、自身の話をしながら会話の糸口を作るコミュニケーション方式、軽いスキンシップ
京都	落ち着いた声、相手に質問をすることで相手が自身の話をしながら会話を本格的に開始するコミュニケーション方式
別府	比較的中立的な声、親しみのある言葉表現を使用するコミュニケーション方式

図3 学内イベントにおけるグッズ制作の様子



出所) 筆者撮影

留学での成果

<達成できなかったこと>

キャリアセンターの直接的な利用

派遣先のキャリアセンターを直接的に利用しようとしたが、アクセス権限の制限により利用が不可能であった。そのため、該当センターとの個別相談は遂行できなかった。しかし、これに留まらず、代替案を模索した結果、就職支援セミナーには参加が可能であることを確認し、これを積極的に活用して就職への探索を開始した。このような過程を通じて、制限された環境の中でも可能な方法を模索し実行する問題解決能力と、限界にぶつかった際に諦めない精神力を向上させることができた。

留学での成果

<今後の進路>

留学期間中に多様な地域を経験し、日本社会に対する理解を深めることができた。これにより日本の魅力を強く感じることができ、日本での長期的な生活に対する関心がさらに増大し、日本で就職したいという考えがより強固になった。派遣先で得た就職への準備、新しい縁との互いへの応援、日本で自分が望むことをしている自身の未来の姿の想像をモチベーションとし、今後これを実現するための準備を継続的に遂行する計画である。

今後このプログラムで留学する学生へのアドバイス

今後このプログラムで留学する学生へのアドバイス次の通りである。

履修科目

交換留学は新しい環境で学問を経験できる重要な機会であるため、事前調査を徹底的に遂行することが必要である。特に受講を希望する科目が実際に開設されるかどうかを事前に確認することが重要である。

また、単純な興味ではなく、本人が留学を通じて何を学びたいかについて明確な目標を設定した後、科目を選択することが望ましいと考える。APUにはない学問を学びたいのか、自身の学部の学問の多様性や深化を望むのか、学びの道を定めれば履修科目の決定は容易になるだろう。自身は学問の多様性と深化を目標としたため、履修科目を調査し決定しながら今後の期待感を感じ、国内留学のときめきが倍増して楽しく留学することができた。

勉強の進め方

講義を単純に受講することに留まらず、ノートテイクを通じて内容を自身の言葉で再構成することが理解度の向上に効果的である。また、講義を聴きながら理解できない部分があればメモをしておき、教授に質問をして確実に理解することを推薦する。質問をすることは自身の学びを確実にするとともに、コミュニケーション能力を高めることができる。さらに、該当学問の専門家に直接質問できる貴重な機会であると考えられる。

今後このプログラムで留学する学生へのアドバイス

留学先の受入体制

APUと同様に健康診断があるが、校内で行うため便利に受診できる。

次に、図書館について述べる。図書館はAPUよりも広く清潔であり、仕切りのある机が設けられているため、自習に非常に適した環境となっている。各席にはコンセントが備えられており、ノートパソコンやタブレット端末の使用にも便利である。また、机には蛍光灯も設置されているため、集中力を高めることができる。図書館以外にも自習できる環境が整っている。廊下には机や椅子、コンセントが多く配置されており、学生が学習できる空間が確保されているため、グループ課題の際にも集まりやすい。授業後や空きコマには、このような環境を積極的に活用することが望ましい。

また、立命館大学には昼休みがあり、この時間にコンビニや食堂（3つほど）を利用して昼食を便利に摂ることができる。昼休み以外にも利用できるのもので、自分の時間に合わせてしっかりとした食事をする事ができる。

今後このプログラムで留学する学生へのアドバイス

生活の知恵

学校が平地に位置しているため、1年以上居住したり、寮や一人暮らしを考えているなら、自転車を購入することを推薦する。学校に自転車駐輪場が大きくあり、便利に登下校できる。徒歩より自転車で登下校することで時間を節約し、同時に運動もできる。また、イオンモールやスーパーの前に自転車を駐輪できる場所が整っており、荷物が多いときや買い物の際など、使用する機会が多い。登下校や旅行などで電車やバスを利用する際、交通カード「ICOCA（イコカ）」の購入、またはアプリのインストールを推薦する。大阪内で利用すればポイントが貯まり、そのポイントでイコカをチャージできるため、ささやかな節約が可能である。

寮のこと

個人的に、寮は学校と距離が遠く費用が負担になったため、シェアハウスに居住した。入退去が自由で保証金がなく、外国人は保証会社なしですぐに契約することが可能である。また、海外にいてもメールのやり取りだけで契約が可能で便利な点がある。費用は寮より安く、家賃と共益費を一度に出せるため複雑ではなく、学校との距離も寮より比較的近いいため登下校しやすい利点があった。他者との居住が不便でなければ積極的に推薦する。

その他

その他伝えたいことや留学生活の中での気づきなど次の通りである。

その他伝えたいこと

大阪の冬の天気は別府に比べて温暖な方である。そして、昼間は暑いが夕方に急に冷え込む場合が多いので、非常に厚い服よりは、少し厚手の外着の中に薄いカーディガンなどの保温性がある服を着ることを推薦する。校内では足元が冷えるので、厚手の靴下を履くことを推薦する。昼休みには食堂に人が多く、次の授業がある場合は利用が難しい。昼休み後に授業があるなら、食堂を利用せず、比較的列が早く進むコンビニで食べ物を購入するか、お弁当を持参するのが良い。

留学生活の中での気づき

多くの人と接することが重要であることに改めて気づいた。新しく有用な情報を多く得ることや、多様な視点と生き方を見ることができ、貴重な経験ができたからである。また、留学生活の中で日本の魅力を感じることができた。新しい場所に行くときめきと新鮮な経験は、今後の人生の大きな原動力となり、同じ場所に何度も行ったことは、その時々で少しずつ変わる状況に出会うことができ、楽しかった。さらに、日本であるからこそ外国人として見える自国との相違点や共通点、新しい点が日本の魅力を感じさせてくれた。

留学準備や留学中における改善点

改善点としては、荷物を増やしすぎないことが挙げられる。留学準備の際、万が一の状況に備えて準備した物が多かった。しかし、すぐに必要なものでなければ留学先に行って購入する方が便利であるため、すぐに使う荷物だけを準備することが、本当に必要な物だけを揃え、無駄な荷物を増やさないことにつながる。そのため、自身の生活習慣を客観的に把握することが重要であるということが分かった。

感想

全体的に留学を振り返り、新しい環境や人々との出会い、多様な学びは、困難ではなく向学心の火種となった。学校の施設は清潔で広く、勉強しやすい環境を持っており、自習の頻度と集中力を上げることができた。また、所々に配置されたウォーターサーバーは、水を求めて遠くまで行かずに済み、非常に便利であった。さらに、多くの授業が開講されており、多様な授業を同時に聴くことができ、それぞれの学問を関連付けて学ぶことができ、学問の連関性と復習に大きな助けとなった。

休みの日には周辺を回りながら日本を楽しむことができ、日本に対する関心がさらに大きくなった。写真でしか見ていなかった場所を実際に行ってみて、他人の感想ではなく自分自身の感想でその場所を定義することに喜びを感じた。また、日本人の人生を垣間見ることができ、貴重な経験となった。就職をすれば、今以上に日本を感じ、楽しみ、日本人と親しくなれるのではないかという気持ちも抱き、今後の就職準備の大きな原動力を作ることができた。また、自身の進路について確実に考えることができるきっかけを作ることができた。

留学先を離れる日はあまりにも惜しく、去る道の足取りがなかなか進まなかった。しかし、この経験を今後活かそうという誓いとともに、力強い一步を踏み出す自分を見ることができた。今回の留学は知識、学問に加え、自身の内面を成長させることができた転換点となった経験であった。

国内留学報告

留学の概要

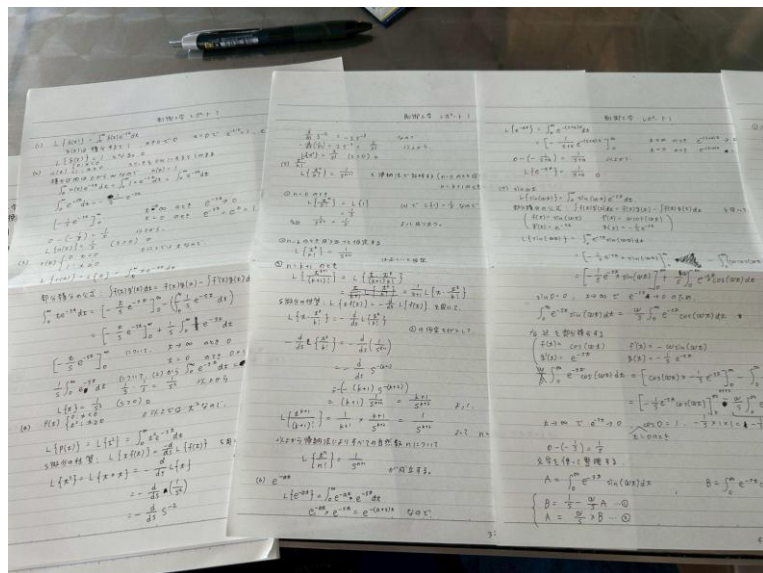
- 大学：立命館大学びわこくさつキャンパス
- 学部：理工学部
- 期間：1 セメスター
- 開始：2025年9月
- 目的：個人的に興味のある組み込みシステムの分野の基礎知識をつけ技術者としての第一歩を踏み出すこと
- 期待：
 - 独学では難しい電気電子分野の講義を浅く広く受けること
 - 同じ道に進む学生と交流すること

留学で達成したこと

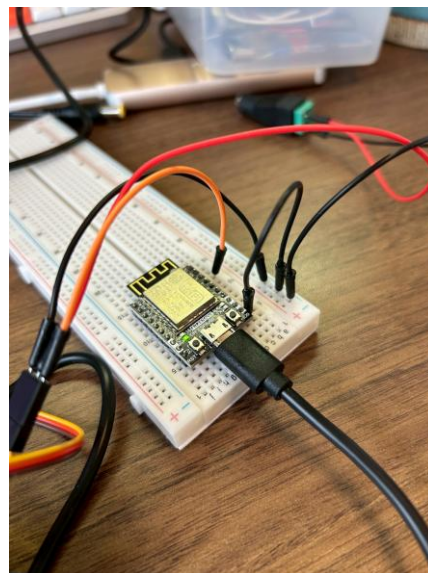
- 電気電子の基礎知識を得た
 - 回路の読み方や計算，仕組みなどの体系的な知識
 - 電気電子分野で使われるプログラミングの基礎
- ロボット制御や情報工学の応用知識を得た
 - 微分積分を応用してロボットのアームなどを動かすための計算方法
 - 会社に出て物作りをする際のフレームワークなど
- 難しい内容に粘り強く取り組む力を得た
 - 初見で理解できる内容は一切無いが，手を動かす中でわかってくる事もあるしわからない事もある
 - わからないことを一生懸命理解しようとするのではなく，一旦放置してとにかく前に進む
 - 学問の面白さの本質はできないことができるようになること

留学中の写真

理解できなくても手を動かす様子



評価ボードを買って試す様子



達成できなかったこと・課題

- 半年では理解に及ばないことが多かった
 - 半年かけて1回生と同じ講義を受ける必要があったが、2, 3回生向けの講義も履修したため基礎が足りず講義を理解しきれなかった
 - もう少し早く留学を決め、1年間留学すべきだった
- 情報系の技術者を目指す学生との交流
 - 学生との交流に対し消極的だった
 - 部活に参加したがあまり顔を出さなかった
- 技術者になるための実践的なこと
 - 半年ではそこまで辿り着けなかった
 - 個人的にロボットを作ってみたのはいい経験だったが、趣味の領域を超えなかった

今後の進路

- 新卒では留学前から志望していたITコンサル企業へ就職
- 転職したとしても基本的にはITエンジニア職やITコンサル職へ進む意志がある
 - 組み込みシステムの技術者に進む事も考えたが、組み込みシステムの技術者として就職するには技術力も知識も不足していると考えた。また、組み込みシステム開発の面白さを感じるまでには達しなかった。
 - 留学以前から取り組んでいたWebやモバイルアプリ開発への熱意は変わらず、その経験を強みとし就職活動を行ない10月頃内々定を獲得
 - 留学で得た経験と知識を直接的に活かせるとは言えないが、無駄だとは全く考えていない

今後留学する方へのアドバイス

- 半年ではあまり成長できない。行くなら一年
- 情報やシステムの知識を得ることが好きなのか，ものづくりが好きなのかを明確に持つ必要がある。ものづくり中心で学びたい場合は，留学以外の選択肢も十分考えられる
- ほとんどの講義は鬼難しいので単位に余裕があった方が良いと思う

その他

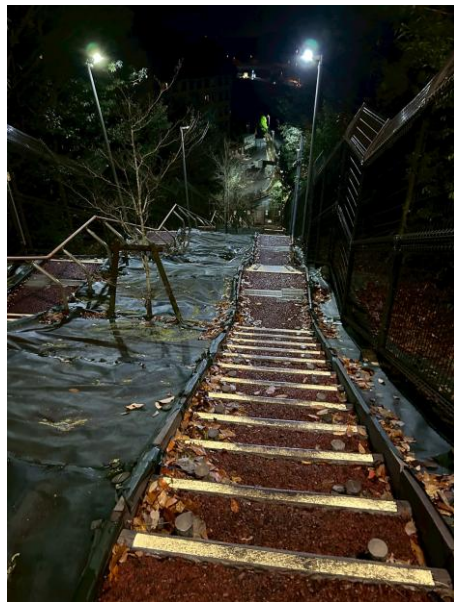
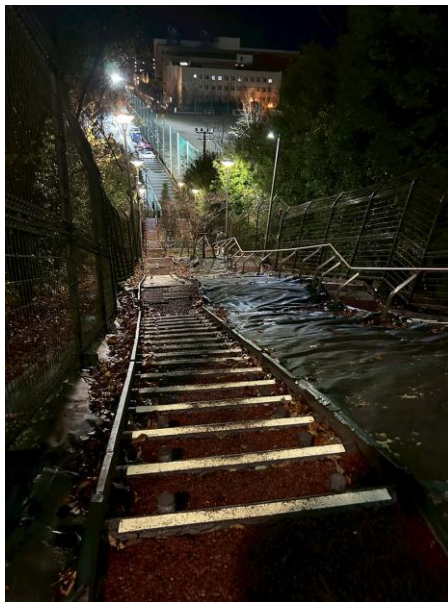
- 滋賀県は住みやすい
- 滋賀は紅葉がとても綺麗
- 寮の外国人留学生と交流できて面白い
- 寮からキャンパスへ行く道の階段がとても長いので注意
- 突然講義がオンラインになることがしばしばあるので注意
- 教科書は基本的に買うべき
- 単位を落としたと思っても諦めない
- 試験範囲がとても広いので早めに勉強した方がいい
 - 1科目につき最低15時間必要だと体感した

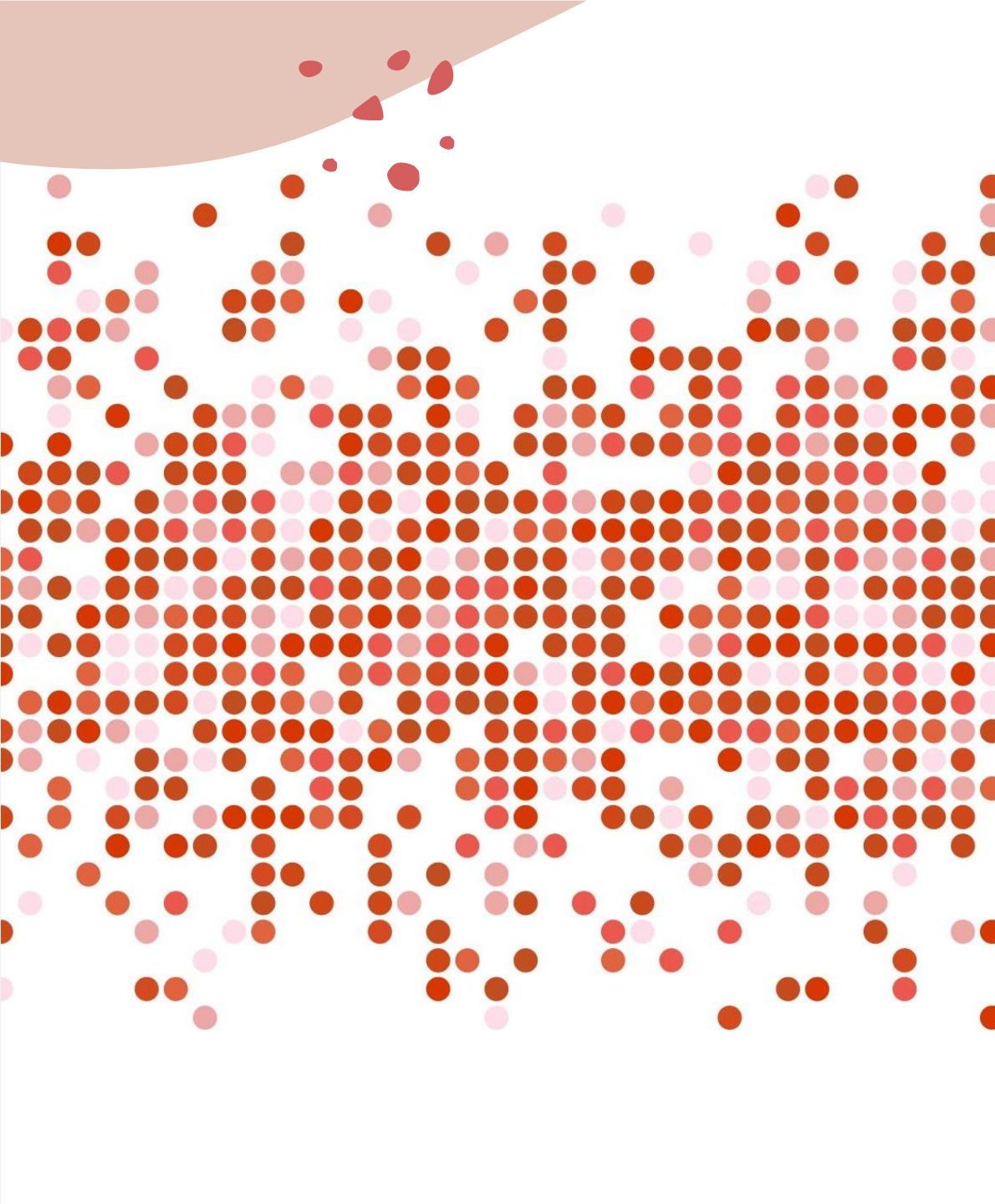
留学中の写真

滋賀の紅葉



寮と大学の間にある階段（合計200段以上）





国内交換留学 最終報告書

概要

派遣先大学：立命館大学

派遣楽部：政策科学部

派遣期間：1セメスター間

派遣開始時期：2025年9月（2回生秋セメスター）

留学での成果

達成できたこと

- ・ APUでは学べないが、学びたいと思っていたことを学べた
- ・ 今後学んでいきたいと思える学問分野を見つけられた
- ・ APUにはいない教授や友達との出会い

達成できなかったこと

- ・ 友達があまりできなかった
- ・ 英語開講の授業が取れなかった
- ・ 単位は取得できたが、良い成績をとることは難しかった

アドバイス

- ・ OICは綺麗だがその分寮費も高いので、学生向け不動産会社のキャンペーン価格でアパートを借りたほうが安かった（unilifeを利用）。家電はレンタル
- ・ ゼミに入っても思うように友達はできなかった。気になる人がいたら勇気を出して個人的に話しかけるのがよい。サークルに入るのもあり
- ・ 半年間でもアルバイトはできる！ やよい軒と大学の学食を掛け持ちしていました
- ・ 一番良かったのは図書館の環境。RUにいる間に図書館を使いつくすとよい

国内交換留学：立命館大学

成果報告

2025年 秋学期

基本情報

派遣先大学	立命館大学 衣笠キャンパス
派遣学部	国際関係学部
派遣期間	2025年度 秋学期
派遣開始時期	2025年9月26日
所属学部 (APU)	アジア太平洋学部 観光学

留学前の目標

① 観光をより広い視点から捉え直す

APUではエコツーリズム・地域観光を中心に学んできた。2024年に京都を訪れた際、混雑や衛生問題を目の当たりにし、「観光が地域にどんな影響を与えるか」を深く考えるようになった。立命館では観光と国際関係・制度・メディアとの関わりを学びたかった。

② 専門外分野（国際関係）に挑戦し、視野を広げる

観光の専攻背景を持ちながら国際関係の授業を受けることで、観光現象を政策・制度・国際関係の観点から分析する視点を身につけることを目標とした。京都という観光の現場で学べることも大きな動機だった。

③ 日本語でのコミュニケーション機会を増やす

日本語授業への参加や日本人学生との交流を通じて、学術的・日常的な日本語運用力を高めることを目標としていた。

専門外での難しかった授業

International Organizations

担当：小林 主茂 教授

- 1 国際機関の定義から始まり、コスト便益・権力・規範という3つの枠組みで同一の事例を複数の角度から分析する視点を習得した。単に「IOとは何か」を覚えるのではなく、なぜそのように設計されているかを考える授業だった。
- 2 COVID-19とWHO、台湾の参加制限などのリアルな事例を通じて、「IOは政治の外に立てない」という現実的な限界を具体的に理解することができた。
- 3 毎週のDMPを通じて問いの質が変わっていった。初週は「定義と概念の確認」ととどまっていたが、後半には「なぜ強力な国家がIOの結果を左右するのか」という構造的な問いを立てられるようになった。
- 4 観光との接点も見えてきた。WHO・ICAO・入国政策の国際的な調整が、旅行者の移動可能性を直接左右しているという事実は、ホスピタリティ・ツーリズムの視点からも重要だと感じた。

Peace and Conflict Studies

担当：波照間 陽 教授

- 1 Galtungの「構造的暴力」概念を用いてパレスチナ問題を分析するグループ論文を担当。自分の担当パートでは1947年国連分割案を歴史的起点として取り上げ、水・教育・医療・経済インフラへの制度的影響を論じた。
- 2 観光が専門で国際関係は初めての分野 → 授業中の即座の発言は難しかったが、ただしペアディスカッションでは、中国でのロックダウン・健康コード・政策変化の経験を共有し、積極的に参加することができた。
- 3 対策：授業後に関連文献を多めに読む、短いまとめを書いて概念を整理、事前に自分の意見を英語で準備するようにしていた。
- 4 「直接的暴力だけを見ていると現実の半分しか見えない」という視点は、観光研究における制度的・構造的な分析にも応用できると感じた。

ゼミでの研究

Osaka as a Base for Kansai Day Trips:

Measuring How Hotels Make Nearby Destinations Feasible Through Guest-Facing Communication

研究方法

- 大阪市内30ホテルの公式英語ウェブサイトコンテンツ分析 (Things to do・Location・Packageページ)
- 2軸で分類：①スピルオーバー言及の広さ (S0-S3)：非大阪目的地の記載数、②行動可能性 (A0-A3)：時間情報・ルート・次のアクション (予約リンク等)
- 「旅行摩擦の軽減」を鍵概念として設定：「京都は近い」という宣伝と「実際に行ける情報」の差を測定・比較した

主な発見

63.3%

のホテルがA0（行動支援なし）

「京都は近い」と書いても時間・ルート・次のステップがない

46.7%

のホテルがS0（大阪外の目的地を一切記載しない）

「関西の拠点」というイメージは必ずしも情報として実装されていない

1件のみ

が最高水準A3を達成

具体的な時間・駅・予約リンクを揃えた事例は全体で1ホテルのみ

ゼミで触れた他の学生の研究テーマ

他の学生の発表を聴講・質疑応答に参加することで、多様な研究手法・問いの立て方を学んだ。

持続可能な観光（東京・京都比較）

COVID禍でインバウンドが激減した時期、日本政府は「量の確保」を優先し国内割引キャンペーン・オリンピック誘客策を推進。その後のオーバーツーリズム問題と合わせて、政策が「量から質」へ転換するプロセスを分析。研究を通じ、観光政策は感染症パンデミックという外部ショックによって大きく方向転換されることを実感した。

地域活性化・祭り与自然信仰（屋久島）

屋久島のお祭りを対象としたフィールドワーク研究。地域の「もの申し（おまつり）」が自然信仰・農漁業・コミュニティの結束と深く結びついていることを、インフォーマルインタビューと参与観察で分析。担当教員からは「フィールドワーカーズ・ハンドブックを参考にデータを体系的に整理するよう」アドバイスがあった。

ベトナム・日本の観光比較

コロナ前後の訪日・訪越旅行者数の推移を比較し、政府の観光促進戦略の違いを検討。「旅行者数を増やすこと」から「旅行者一人当たりの消費・体験の質を高めること」へのシフトが、財政的にどのような意味を持つかを議論した。数を抑えながら収益を確保するモデルの実現可能性が焦点となった。

日本人学生・留学生との交流

授業内での交流の実態

- 発言が難しかった一番の理由は、国際関係が自分の専門外だったこと（語学力の問題だけではない）。概念を理解してから自分の意見をまとめるまでに時間がかかり、その場で発言するのは難しかった。
- ペアディスカッションには毎回積極参加：中国・アジアからの視点（ロックダウン経験・非干渉主義・主権観）を積極的に提供した。
- 同じグループの日本人学生と短い会話。日本人学生の英語力が想定以上で、英日ミックスで話せる場面もあった。

寮・学内施設での交流機会

- 大將軍インター寮内の留学生同士でハロウィンイベント・共有キッチンで料理や会話をしたりすることが多く、自然な形で友達ができる環境だった。
- 宿舎のRA（日本人学生）とも英語で話せた。「おかえり/いってらっしゃい」と声をかけてくれるマネージャーのおかげで、毎日「家に帰ってきた感覚」があった。

日本人学生・留学生との交流

学校内の経験

Peace and Conflict Studiesのグループ発表も大きな経験となった。40分の発表と10分のQ&Aという構成で、4人グループで取り組んだが、自分はパレスチナ問題にあまり馴染みがなく、事前に多くの文献を読んで準備した。しかし、練習の段階ではうまく言葉が出ず、英語での説明に苦労した。

そのような中で、メンバーが何度も励ましてくれ、具体的な改善点を一緒に考えてくれたことが非常に印象的だった。この経験を通じて、単に知識を身につけるだけでなく、他者と協力しながら学ぶことの重要性を実感した。

セミナー内のカンファレンスでは、各グループが2回発表する機会があった。2回目の発表では、聴衆が多く教授も参加していたため、とても緊張し、一部言葉を忘れてしまった。

そのとき、聴衆の中から励ますような微笑みが見えたことが印象に残っている。そのおかげで落ち着きを取り戻し、最初から流れを意識して最後まで発表することができた。

寮での経験

寮では定期的に交流の機会があり、学生同士で自然に集まる雰囲気があった。例えば、LDKスペースに集まって映画を観ることがあり、自分も一度参加してリラックスした時間を過ごすことができた。

クリスマス前には学生同士で韓国の焼酎（チャミスル）の瓶を使ってクリスマスツリーを作り、ライトを飾ったことが印象に残っている。シンプルな材料でありながら、とても温かく創造的な雰囲気が生まれていた。

クリスマスイブには数人の寮の友人と一緒に料理を作り、食事を共にした。このような日常的な交流を通じて、国籍を超えたつながりや「共に生活している」という実感を得ることができた。

留学の成果：

達成できたこと

- 希望する6科目・ゼミをすべて登録できた（時間割重複のみ調整）。
- 専門外（国際関係）分野で英語論文を複数完成させた（構造的暴力論文・日本経済論文・紅包の人類学論文）
- 観光と国際制度・メディア・平和研究の具体的な接点を発見できた（WHO×COVID・入国政策×観光移動など）
- ゼミでのコンテンツ分析研究を完成し、雨河教授からフィードバックを受けた。観光の知識（ホスピタリティ・観光情報行動）を国際関係のゼミで活用できた。
- セミナー・カンファレンスに参加し、英語でのプレゼン経験を積んだ（普段は人前での発言が苦手）
- 自分の研究関心の方向性（観光×制度的情報提供・観光と社会の接点）がより明確になった。

今後の進路について

「観光と社会」「観光×情報提供・制度」をテーマに大学院で研究を続けたいという気持ちが強まった。今回のゼミ研究はその原型となりうる。

キャンパス・日常生活

図書館・印刷

立命館の図書館はAPUの学生証で入館可能（気づいたときは驚いた）。さらに印刷が無料できる。

授業の立地

国際関係学部の授業は同じ建物に集中しているためキャンパス内の移動がほぼ不要。便利だった。

食堂・生協アプリ

衣笠に食堂が2つ（APUより規模は小さいめ）。お弁当屋・Co-opショップ・カフェ・フードカーもあり多彩。生協アプリでメニューとレビューを事前確認できて便利。昼休みは12:20～13:10（50分）

キャンパス間シャトルバス

衣笠⇄BKC間は1日4便（最早便は午後3時頃出発）、料金約150円。予定を立てる際は時刻表を事前確認しておくこと。

BBP / LEP（言語交換）

APUのSALCに相当する施設。無料の言語交換プログラム（LEP）あり。授業外で話す機会が欲しい人・一人学習が続かない人には特におすすめ。友達も作りやすい。

Moodle/ Manaba

課題提出・資料配布・アナウンスなどは授業ごとに異なり、最初はやや分かりにくかったが、慣れれば問題なく対応できた。
なお、次学期以降はMoodleに統一される予定と聞いている。

留学を通じた気づきと今後の方向性

「観光は国際関係・制度と切り離せない」という実感

WHO×COVID・航空規制・入国政策の授業を通じ、観光者の移動可能性が国際制度の産物であることを理解。HTで学んだことに「なぜそうなるか」という制度的な根拠が見えた。

専門外の分野に入ること、観光の知識の活用場面が広がる

国際関係のゼミでホスピタリティ研究（情報行動・観光分散）を用いてコンテンツ分析を行った経験は、「観光学と国際関係/社会科学はつながっている」という確信につながった。自分の専門を他分野で使うことで、どちらの視点も鋭くなった。

「観光と社会の接点」を研究テーマとして深めたい

今回のゼミ研究・授業を通じて、「観光情報提供の制度的・空間的構造」「観光政策と国際制度の相互作用」を大学院レベルで探究したいという気持ちが具体化した。雨河教授のフィードバックが今後の研究方向性を整理する助けになった。